



学校の臨時休業に伴う 対応と取組について

松本 隆志 議員



質問 3か月に及ぶ臨時休業の間の児童生徒への取組を振り返り、課題としての認識はいかがですか。

答 決定の際に保護者や地域への情報発信が遅れ、ご心配やご迷惑をお掛けしました。また、家庭学習課題が1週間単位の提示となり、小学校低学年に大きな

負担を掛けてしまいました。放課後児童クラブとの連携

質問 児童支援員は感染リスクのなか、長期間に及ぶ長時間労働の状況でしたが、放課後児童クラブとの連携や支援について伺います。

答 職員の派遣や来校の際に学習支援、体育館や校庭を提供し、児童の活動に

活用していただきました。

引き続きクラブの負担軽減に努めたいと考えています。

学習の遅れへの取組

質問 学習の遅れを取り戻すため、夏休み縮減や行事の精選により70%の教育課程で行うとのことですが、児童生徒は勿論、教員の負担増も懸念されますが、どのように取り組むのか伺います。

答 スタディサプリを効果的に活用することで、教師は児童生徒の理解度を把握でき、学び直しの指示も

的確に行うことができます。

児童生徒は短時間でポイントを絞った復習が可能となり、増えていく家庭学習の負担が軽減できます。

要望 国はGIGAスクール構想を掲げており、教育環境の変化も加速していきます。オンライン教育が、新たな教育の付加価値となるよう取組をお願いします。

質問 学校再開により自殺や不登校が増える懸念があるなか、子どもたちへの心のケアについて

のケアについて伺います。

答 臨床心理士指導の下、心のケア資料を教職員、保護者、子どもたちへ周知し、心のケアを最優先に実施します。また、道徳教育の充実や、中学生にはLINE相談を活用してもらい、不安や悩みを幅広く受け止めていきたいと考えています。

要望 学校は勉強だけでなく様々な学びや体験、生活や交流をする場です。子どもたちの機会をできる限り確保するようお願いいたします。



避難所と学校の今後の運営について

斉藤 貢一 議員



質問 今年度、館林市地域防災計画に修正が加えられたが、感染症対策については反映されることは無かったのか伺います。

答 国や県の修正に準ずるかたちで行われたものであり、避難所における新型コロナウイルスを含む感染症対策については、国は5

月に防疫対策の推進を修正事項に追加したところです。

質問 台風19号の避難状況についてアンケートをとりましたが、その中で80歳以上の避難率が低いことについて、どのように考えているのか伺います。

答 過去の経験から、自分の家は安全で避難の必要

を感じなかった等、正常性のバイアス（先入観）が影響したものと考えています。

要望 想定外の災害が起きる中で、正常性バイアスが働くことは、危惧しなければならぬ状況だと感じます。避難所の収容人員、備蓄品、避難場所、要配慮者の避難体制等、新型コロナウイルスに対応した市独自の対応策を早急に求めます。

質問 文科省の「学校の新しい生活様式」では、本市はレベル1の状況にあるの

に、県においての学校再開ガイドラインは警戒度2となつていますが、現状認識と判断について伺います。

答 「新しい生活様式」を踏まえた学校の行動計画ではレベル1であり、県のガイドラインでは、警戒度2となりますが、教育委員会事務局の中で検討し、市対策本部で協議を行い、承認された体制です。

質問 文科省では、日常的行動範囲等における蔓延状況、つまり生活圏を考慮し

た学校対応を求めています。本市は県を向き、県は東京圏を向いて判断していますが、市の教育委員会独自の取組をすべきと思います。また、県の指導計画案の中では、授業日数、全教科3割削減と示されましたが、入試を控えた中学3年生に對しては、どのような配慮がなされるのか伺います。

答 3割削減案を基に、各中学校が指導することを踏まえて出題するものとして、隣接県とも調整します。